様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｈ０２４１４

研究課題名（和文）古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究

研究課題名（英文）Studies on the cultivation of valley bottom plains and surrounding hills and the development of religious facilities in ancient times

研究代表者
梶原　義実（KAJIWARA, Yoshimitsu）

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：８０３３５１８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,500,000円

研究成果の概要（和文）：　豊田市伊保廃寺（伊保古瓦出土地）の測量・発掘調査を５年間にわたって継続して実施した。全国的にも珍しい立瓦を貼り付けて化粧とした基壇および、それに白色粘土を貼り足し拡張修復した２時期の基壇遺構を確認したことで、本遺跡が古代寺院であることを確定することができた。
　また、尾北窯を中心とした数回の学術シンポジウムの開催および、猿投窯関係資料の整理と論考の刊行、須恵器など考古遺物の三次元Web展示システムの開発などを実施した。
　それらの研究成果を総合し、『伊保廃寺発掘調査報告書』を刊行し、2022年３月13日には、地元向けの総括シンポジウム「伊保谷からみた豊田市の古代」を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　豊田市との協力体制のもと、豊田市内での古代寺院の発掘調査を継続して実施し、その成果を発掘調査報告書を刊行し、さらにそれを市民向けシンポジウムとして公開するという一連の事業の中で、文化財の地域社会への還元をおこなえたことは、研究的な業績に加え、本研究の大きな成果であるといえる、
　さらに本研究では、文化遺産の三次元Web展示システムの開発もあわせて実施しており、今後の発展次第では、日本における博物館や埋蔵文化財事業等にも資する成果をあげている。

研究成果の概要（英文）：Surveying and excavation of Ibo Abandoned Temple (Ibo Kogawara Site) in Toyota City was carried out continuously for 5 years. By confirming the base that was made up by pasting a standing roof tile, which is rare in Japan, and the remains of the base that was expanded and restored by adding white clay to it, it can be confirmed that this site is an ancient temple. did it.
In addition, we held several academic symposiums centered on the Bikoku kiln, organized materials related to the Sanage Kiln, published articles, and developed a three-dimensional Web exhibition system for archaeological relics such as Sue pottery.
Comprehensive research results were published, "Ibo Abandoned Temple Excavation Survey Report" was published, and on March 13, 2022, a general symposium for the local community "Ancient Toyota City as seen from Ibodani" was held.

研究分野：考古学

キーワード：歴史考古学　日本史学　古代寺院　窯業生産　仏教史学　手工業生産　三次元計測

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

古代における集落論・地域社会論については、近年その端緒についたところである。今津勝紀・菱田哲郎による加西市域の古代集落の時期的展開の復原（今津・菱田「古代の賀茂郡と社会」『加西市史』１、2008 年）や市川市史編纂事業の一環として吉村武彦・山路直充らによりおこなわれた事業報告書『下総国戸籍 遺跡編』（2014 年）など、自治体史や地域史研究の中で集落動態が取り上げられることが多くなってきており、本研究で扱う西三河地域においても、永井邦仁の優れた研究がある（永井「碧海台地東縁の古代集落」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』11、2010 年）。そういった中で、『古代文化』誌による「特輯 古代東国の地域開発」（59 巻２号、2007 年）においては、東国各国の集落展開を、その立地のあり方および時期的変遷の双方から精緻に分析検討しており、古代地域社会論のひとつの到達点を示している。

しかしながら、これらの地域社会論は、あくまで集落動態からの視点に留まっており、他の地域社会の構成要素、たとえば生産遺跡や寺院等宗教遺跡、官衙等については、かならずしも丁寧に扱われているとは言い難い。むろん、これらの要素が無視されているわけでは決してなく、「特輯 古代東国の地域開発」においても、編者の田中広明や各執筆者は、窯跡や官衙・寺院への目配りをおこなってはいる。しかしそれらは、郡司層による地域開発や初期荘園などという、地域開発の契機やその管掌者に関しての結論を導く材料として使用されるのみであることが多い。文献史料による固有名詞を早急に与えるこれらの研究動向には、残念ながら首肯できかねる。考古学的に検討可能なすべての地域社会の構成要素について、立地や時期的変遷、窯業遺跡であったらどのような製品をどこで生産したのか、寺院であったら伽藍の構成や運営施設の有無、出土瓦からみた造寺工房のあり方など、等価に総合的に復原しつつ、各地域社会のモデルを構築していくことこそが、考古学という学問的立場のもとでおこなう地域社会論であると確信する。

研究代表者の梶原義実はこれまで、古代寺院の立地から寺院造営の意図を読み解く研究を進めてきており、その諸成果は 2017 年には単著『景観からみた古代寺院』（吉川弘文館）として上梓される。この研究を通し、とくに７世紀後半に全国で激増する古代寺院の多くが、かならずしも官衙や陸上交通路に隣接せず、むしろ谷底平野など水田開発を基軸とした小地域ごとに配されることが多い点を確認し、古代寺院が農業生産と深く関連しながら展開していくと論じた。

しかしながらこの研究は、あくまで寺院立地の全国的な傾向性から、その意味についてマクロな視点で解釈したものに過ぎない。実際のミクロな地域ごとの集落展開を含めた詳細な遺跡動態との照合は充分におこなわれておらず、その課題を解決すべく本研究の着想に至ったものである。

なお、本研究の前段階として、櫃本誠一を研究代表者とする科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）「播磨における古代・中世寺院の造営背景と地域伝承についての考古学・歴史学的研究」に研究分担者として参画し、一定の成果をあげているが、この研究はあくまで地域伝承を基軸としていたため、集落論を含めた考古学的動態の蓄積には充分に至っておらず、今回の申請に繋がった。

２．研究の目的

古代において谷底平野は、水田開発をおこなうにあたり手頃な空間として、周辺の山林も含め、早い時期から土地利用が積極的におこなわれてきた。筆者はこれまで、古代寺院の立地に関する研究の中で、このような農業を基盤とした小地域社会の造寺活動に着目してきた。しかしこの研究はあくまでマクロな視点からの検討であり、各小地域における集落や生産遺跡、古墳等の展開過程について、時期的変遷を含め詳細な復原をおこない、その上で造寺のあり方を考察する必要がある。本研究では愛知県豊田市の籠川・伊保川流域の谷底平野と周辺の段丘・丘陵部をおもな題材とし、古代の土地利用のあり方とその意味について、水田開発・手工業生産の展開・山林開発・造墓活動・寺院等宗教施設の造営等、多種の視点から複合的に考究することを目的とする。

本研究ではおもなフィールドとして、愛知県豊田市の籠川・伊保川流域の谷底平野とその周辺の段丘・丘陵部をとりあげ、該地の古代地域社会の復原をめざす。籠川・伊保川は矢作川中流に流れ込む小河川で、籠川は南北に、伊保川は東西に小規模な開析谷を形成する。伊保谷の洪積台地面には弥生時代中期以降、伊保遺跡が拠点的集落として形成される。周辺丘陵部には古墳時代を通して多くの古墳が造営され、上向イ田窯では須恵器とともに埴輪も焼成される。７世紀後半～８世紀初頭頃には、籠川によって形成される亀首谷を見下ろす段丘上に舞木廃寺が、伊保谷にも伊保廃寺（伊保古瓦出土地）が造営される。谷底平野の景観を取り囲むようにこれら多様な構成要素をもつ遺跡群に対し、本研究では、「生活」「生産」「信仰」の３つの視点から研究を進める。

生活：人々の生活拠点である集落展開や官衙等の形成をあらわす。該地の集落展開を、伊保遺跡を中心とした遺跡のあり方から詳細に跡づけ、それを西三河全体の動向の中で位置付けていく。また、周辺丘陵よりさらに奥部の、山間部における集落形成と土地利用についても考えたい。その上で、出土文字資料等も鑑みつつ、西三河地域の集落・官衙の動態を復原する。

生産：窯業を中心とした手工業生産をあらわす。該地付近の丘陵部には、古墳時代後期以降、多くの窯が形成される。これらの窯のいくつかでは、須恵器のみならず埴輪や瓦の焼成も確認されており、生産品が多岐にわたることを示す。これらの窯の編年を再整理しつつ生産地の動態を確認し、猿投窯東山地区や尾北窯での生産との対比、箆書須恵器等の出土文字資料や文献史学からの手工業生産史との照合をおこないつつ、該地の窯業生産の特質をあきらかにする。

信仰：墳墓や寺院の展開をあらわす。とくに該地における２つの古代寺院について、伊保廃寺の発掘調査および舞木廃寺の出土遺物整理作業を通して、寺院の規模・構造や周辺他寺との関係性についてのデータを取得する。それに加え、立地論からの解釈や西三河の古代寺院の動態の中での変遷から、この２つの寺院が造営された背景に迫る。そのうえで、文献史学からみた地方寺院のあり方と対比させつつ、遺跡動態からみた地方寺院の造営背景についての議論を深めていく。

この生活・生産・信仰の３つの視点について、遺跡ごとの性格を鑑みつつ、地勢・立地および他遺跡との地理的近遠などを横軸に、時期的変遷を縦軸にとりつつその動態を分析することで、該地の地域社会のあり方およびその変遷過程について、総体的にあきらかにしていく。

３．研究の方法

本研究では、愛知県豊田市籠川・伊保川流域を題材とし、谷底平野周辺地域における古墳時代から古代にかけての景観と土地利用の変遷とその歴史的意味の総合的解明を目的とする。

そのための研究体制として、「生活」「生産」「信仰」の３テーマごとに研究チームを構成する。

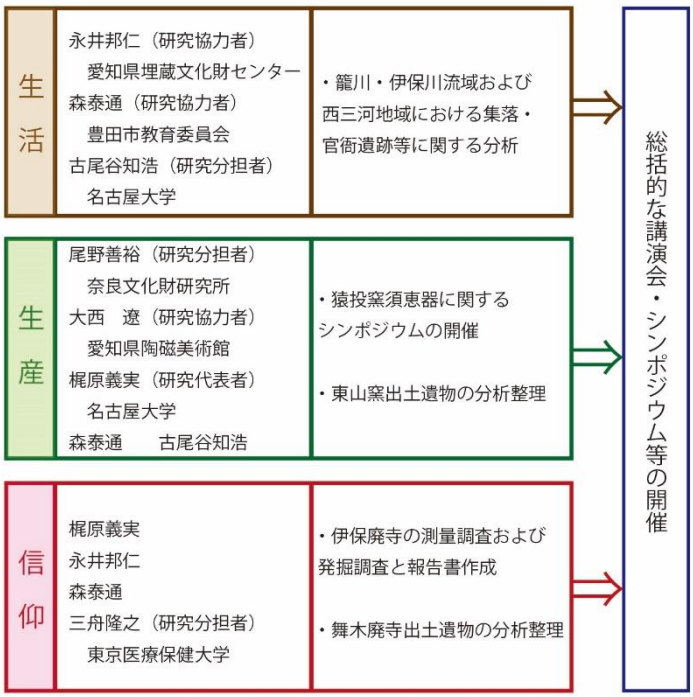
具体的な研究計画としては、①伊保廃寺の測量調査および発掘調査（「信仰」チーム） ②東山窯出土遺物の分析整理（「生産」チーム） ③猿投窯須恵器に関するシンポジウムの開催（「生産」チーム） ④舞木廃寺出土遺物の分析整理（「信仰」チーム）をおこない、それらの諸成果および「生活」チームや文献史学の研究成果を総合しつつ、⑤総括的な講演会またはシンポジウムの開催をおこない、研究成果を総括するとともに、地域住民への還元をおこなう。

① 研究体制

研究目的に記した「生活」「生産」「信仰」の３視点ごとに、それぞれ卓越した研究業績のある適切なメンバーで研究チームを構成する。

生活：永井邦仁・森泰通・古尾谷知浩で構成する。伊保遺跡をはじめとした籠川・伊保川流域の古墳時代～古代における集落の状況は、地元豊田市教育委員会の森がもっとも詳しい。永井は西三河中南部にあたる碧海台地周辺における古代集落の変遷過程を、その立地のあり方と関連づけて考察してきており（永井先述文献、2010 年）、矢作川本流の広闊な沖積低地および台地部と、本研究で扱う矢作川支流の谷底平野における集落動態の相違およびその意味について考究する。また永井は豊田市域における中山間地域の開発についての論考も著しており（永井「西三河－平野と山間古代集落の動態と相関－」『東海地方における古代の地域社会』第 20 回考古学研究会東海例会資料集、2013 年）、さらに広域な集落の変遷について、総合的に分析をおこなう。奈良文化財研究所が刊行する基礎資料『平城宮木簡』『平城京木簡』の作成に長く携わっている古尾谷は出土文字資料に造詣が深く、永井とともに、西三河地域における出土文字資料等を通して、西三河における集落の性格等について考察する。

生産：尾野善裕を中心とし、梶原・古尾谷・森・大西遼で構成する。尾野は猿投窯における須恵器編年や生産構造についての第一人者で、現在までに多くの研究業績を蓄積している（尾野「猿投窯（系）須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅』東海土器研究会、2000 年など）。愛知県陶磁美術館保管資料の再整理等を通し、近年興味深い知見を提示している大西（大西「古墳時代の猿投窯出土須恵器の調査」『あいちの考古学 2015』愛知県埋蔵文化財センター、2015 年）とともに、該地および広く猿投窯における須恵器編年と生産地の動態について検討する。森は上向イ田窯など猿投窯における埴輪生産に（森ほか『上向イ田窯』豊田市教育委員会、2009 年）、梶原は伊保廃寺に瓦を供給したみよし市下り松窯など瓦生産について詳しく（梶原「瓦生産」『愛知県史 資料編４ 考古４ 飛鳥



～平安』愛知県、2010 年)、尾野などとともに特殊品を含む猿投窯の生産構造について研究をおこなう。これらの諸成果は、尾野が会員となっている古代土器研究会・東海土器研究会と共催し、猿投窯の須恵器に関するシンポジウムをおこなうことで、研究者に還元し、また多くの研究者からのフィードバックをさらなる研究の進展に活かす。それとともに、上向イ田窯とおなじく埴輪生産窯である東山 61 号窯および隣接する東山 39 号窯出土遺物の整理とその評価を、調査担当者の梶原を中心におこない、籠川・伊保川流域の生産構造との比較検討材料を提示する。古尾谷は文献史学からみた手工業生産史について一書を著しており（古尾谷『文献史料・物質資料と古代史研究』塙書房、2010 年)、文献史学の立場から提言をおこなう。

なお、生産チームには 2019 年度より、猿投窯における特殊品生産研究の望月（大塚）友恵と、須恵器の三次元測定を担当する井上隼多を追加した。

信仰：梶原を中心とし、永井・森・三舟隆之で構成する。梶原は先述のとおり、古代寺院の立地に関する論考をこれまで多く著してきており（梶原前掲書、2017 年刊行予定、梶原「古代寺院の選地に関する考察－近江地域を題材として－」『考古学雑誌』95-4、2011 年など)、立地から古代寺院の造営背景に迫る方法論の確立を目指している。その梶原が中心となり、伊保廃寺の測量調査および発掘調査をおこなうことで、これまで川原寺式の瓦が採集されるのみで、伽藍等の具体的状況がわかっていなかった伊保廃寺の遺構について解明する。さらに、伊保廃寺出土瓦と下り松窯出土瓦との詳細な検討作業から、伊保廃寺の造営のあり方や周辺諸寺との関係についても検討をおこなう。また、豊田市教育委員会では 2003 年に舞木廃寺の発掘調査をおこなっており、舞木廃寺出土遺物の整理作業をおこなうことで、舞木廃寺の造営体制や、周辺諸寺との関係をあきらかにする。これらの作業には、森が所属する地元豊田市教育委員会の助力が不可欠である。また森は該地の古墳の動態にも精通しており、古墳から寺院への過渡期の状況について考察をおこなう。永井は西三河の古代寺院と古瓦についての研究を積極的におこなっており（永井「三河における古代寺院の成立」『尾張・三河の古墳と古代社会』同成社、2012 年)、梶原と協業しつつ、西三河全体を俯瞰したうえでの該地の位置付けについて、研究を進めていく。三舟は文献史学者ではあるが、関東地方を中心に、古代寺院に関する発掘調査や瓦の研究など、考古学的成果についても造詣が深い（三舟『日本古代地方寺院の成立』吉川弘文館、2003 年など)。文献史学の立場から、伊保廃寺および舞木廃寺の調査成果について提言をおこなう。

これら３チームの研究については、毎年数度の会議を開催し、それぞれの成果について議論・検討をおこなっていく。最終年度には総合化し、豊田市内での講演会またはシンポジウムの開催をおこなうことで、成果を地域に還元する。

４．研究成果

本研究においては、以下のとおりの研究成果をあげた。

「信仰」チーム

豊田市および研究協力者の森泰通の協力をうけ、５年間を通して豊田市伊保廃寺（伊保古瓦出土地）の調査を継続して実施した。

2017 年：８月 21 日から９月４日にかけて、遺跡地のうち現伊保川南側の丘陵裾部を今回の調査地とし、名古屋大学文学部・人文学研究科の学生を中心に、トータルステーションによる測量と平板測量（100 分の１）を併行しつつ、地形測量図を作成した。その結果、調査地北西端に約 12m×6.5m の基壇上高まりを確認できた。その一方で、調査地東半は後代のゴミの堆積等で、現地形からは伽藍等の広がりを判断できなかった。

2018 年：８月 18 日から９月 14 日にかけて、基壇上の高まりの西側と南側にそれぞれ２ｍ×４ｍのトレンチ（１・２トレンチ）を、調査地全体の遺構分布を確認するための幅１ｍのトレンチを２本（４・５トレンチ）設定した。発掘調査の結果、基壇上の高まりについては、その下層から現代の廃棄物が混じる土層が確認でき、現代に造られた人工的な盛土であることが確認できた。さらにその下層の状況を確認すべく、土壇南西端に幅１ｍの６トレンチを設定し掘削をおこなったところ、瓦溜遺構および小礫で充填された東西方向の溝状遺構が確認できた。これらの性格は現状では不明であるが、寺院に関連する遺構の可能性もある。その直下の小土器片が混じる水性堆積土について、株式会社パレオ・ラボに委託し放射性炭素年代測定をおこなった結果、4,857-4,729 cal BC という結果が出た。４・５トレンチについては、表土直下にコンクリートの投棄が深さ 1.5m 以上にわたり確認できたが、その下層の状況についてはあきらかにできなかった。

2019 年：８月 19 日から９月９日にかけて、昨年度６トレンチ周囲に６ｍ×６ｍのトレンチ（７トレンチ）を設定した。また、南方への遺構の広がりを確認するため、南へ１ｍ×25ｍの長いトレンチ（８トレンチ）を設定した。発掘調査の結果、瓦溜自体は中世の遺物も混じる二次堆積であることが確認されたものの、地山を削り出し端部に平瓦を貼り付けた瓦積基壇および、その外側に白色粘質土を貼り付け改修した２時期の基壇が検出された。８月 31 日には、発掘調査成果を市民に公開するための現地説明会を開催し、30 人以上の参加者を得た。

2020 年：８月３日から９月１日にかけて、2019 年度に検出した２時期の基壇遺構を追いかけるため、９トレンチ（12ｍ×４ｍ）および、基壇北端を確認するための幅１ｍの 10 トレンチを

設定し、発掘調査を実施した。その結果、瓦列および白色粘土の基壇の西側への広がりおよび、基壇南西隅の位置を確認することができた。８月 22 日には発掘調査成果を市民に公開するための現地説明会を開催し、50 人以上の参加者を得た。

2021 年：８月２日から８月 24 日にかけて、2020 年度に検出した基壇南端および推定南西隅の位置を基準とし、基壇の西端および北西隅を検出するため、11 トレンチ（８ｍ×４ｍ＋拡張区）を設定した。北西隅は河川改修工事で滅失していたものの、基壇の西側の瓦列等を確認できた。８月 21 日には発掘調査成果を市民に公開するための現地説明会を開催し、40 人以上の参加者を得た。

以上５年の調査結果として、伊保廃寺は全国的にも珍しい、立瓦列で化粧された基壇をもつ古代寺院であることが判明した。これまで寺院として認定されていなかった本遺跡が古代寺院であることがあきらかになったことは、大きな成果といえる。２時期にわたる基壇の構造や、また南面しないであろう基壇と周辺諸環境との関係性については、代表者の梶原が総括報告書に論考を掲載した。

伊保廃寺と周辺他寺との関係性についても、名古屋大学人文学研究科博士前期課程の島田莉菜が、丸平瓦を中心とした分析をおこなうことで、賀茂郡における勧学院文護寺を中心とした造瓦工人の展開状況をあきらかにし、代表者である梶原との共著として『三河考古』31 号に論考を上梓した。本論については総括報告書にも転載した。

「生業」チーム

分担者の尾野善裕を中心に、古代土器研究会・東海土器研究会との共催で、尾北窯関係のシンポジウムを実施した。2017 年度には「尾北窯を考える」を２回にわたり開催した（第１回：８月 19 日・春日井市公民館。第２回：11 月 19 日・愛知県陶磁美術館）。高蔵寺２号窯など尾北諸窯の出土遺物を実見しつつ、代表者の梶原、分担者の尾野、古尾谷知浩、協力者の大西遼をはじめとした諸研究者がそれぞれ報告をおこない、尾北窯をはじめとした東海地域の古代須恵器の土器編年および、瓦生産を含む生産構造のあり方について、活発な議論をおこなった。とくに高蔵寺２号窯の年代観について、宮都周辺での出土状況や出土文字資料などから、その初現を引き上げる見解が提示されたのは、重要な成果といえる。2018 年度は、愛知県埋蔵文化財センターの協力のもと、シンポジウム「北丹波・東流遺跡と８世紀の須恵器生産」を開催した（2019 年３月 16 日）。分担者の尾野などが研究報告をおこない、尾張における美濃産須恵器の展開などについて議論をおこなった。

また、協力者の大西遼を中心に、愛知県陶磁美術館所蔵資料をはじめ東海一円の須恵器・灰釉陶器資料のデータ化が進められ、大西による多くの論考が著された。さらに、協力者の井上隼多を中心に、須恵器編年への人工知能技術導入へ向けての試論が情報考古学会で報告された。須恵器資料の人工知能による産地同定プログラムの構築も進められ、３Ｄデータの博物館展示等への社会活用として、愛知県陶磁美術館や国立工芸館への技術提供をおこない、開発した Web アプリケーション「Culpticon」を名古屋大学博物館で試験運用した。

猿投窯の調査研究成果としては、名古屋大学における東山窯の発掘調査成果である『東山 118 号窯発掘調査報告書』が上梓された（2020 年９月）。

「生活」チーム

分担者の三舟隆之・古尾谷知浩、協力者の永井邦仁を中心に、生産・宗教と権力構造や地域社会との関係性についての諸論が上梓された。これらの成果は各氏の論考および、総括報告書・総括シンポジウムでも、本研究の成果として提示された。

それらの成果を総合し、科研の総括報告書としての『伊保廃寺発掘調査報告書』（報告編・論考編あわせて 238 ページ＋写真図版）を 2022 年３月に刊行した。また 2022 年３月 13 日には、地元向けの総括シンポジウム「伊保谷からみた豊田市の古代」を実施し、代表者・分担者・協力者それぞれが講演をおこなうとともに、全体討論会をおこなった。本シンポジウムは 120 名以上の参加者を得、多くの地元マスコミに取り上げられるなど、大きな反響があった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計56件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 古尾谷知浩	４．巻 279
２．論文標題 伊賀国玉瀧杣と天皇家産制的建築生産	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ヒストリア	６．最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 森泰通	４．巻 12
２．論文標題 豊田市の古墳時代資料調査補遺－市塚古墳・豊田大塚古墳・荒山1号墳・梅坪遺跡－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 豊田市史研究	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 永井邦仁	４．巻 12
２．論文標題 沖積低地の古代集落遺跡と平安時代の洪水　-千石遺跡を中心に-	５．発行年 2021年
３．雑誌名 豊田市史研究	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 堀涼・井上隼多・大西遼・梶原義実・浦田真由・遠藤守・安田孝美	４．巻 -
２．論文標題 文化財行政におけるデジタル化	５．発行年 2020年
３．雑誌名 社会情報学会中部支部・芸術科学会中部支部研究会・情報文化学会中部支部研究会合同研究会・研究発表論文	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 -
2．論文標題 地方寺院の成立と国分寺	5．発行年 2020年
3．雑誌名 テーマで学ぶ日本古代史　社会・史料篇	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 -
2．論文標題 古代の神仏習合	5．発行年 2020年
3．雑誌名 テーマで学ぶ日本古代史　社会・史料篇	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼	4．巻 3
2．論文標題 地方における白瓷生産拡散の実態と猿投窯―尾張国知多半島・伊勢国・飛騨国・近江国・山城国の白瓷窯から―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東海窯業史研究論集	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼・片桐妃奈子・河野あすか・中川永・森まどか	4．巻 30
2．論文標題 灰釉陶器出現前後の猿投窯―3．K－14号窯（上）―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 三河考古	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼	4．巻 13
2．論文標題 中世初期の東海地方における子持器台	5．発行年 2021年
3．雑誌名 中近世陶磁器の考古学	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中川永・大西遼	4．巻 50
2．論文標題 『朝妻沖湖底遺跡』の調査成果と基礎的検討	5．発行年 2021年
3．雑誌名 人間文化	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼	4．巻 26
2．論文標題 愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅳ―猿投窯黒笹・東山地区出土須恵器・瓷器の考古学的調査	5．発行年 2021年
3．雑誌名 愛知県陶磁美術館研究紀要	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上隼多、堀涼、川西康友、村瀬洋、梶原義実	4．巻 23
2．論文標題 人工知能による機械学習を用いた須恵器資料の断面形状分析	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本情報考古学会講演論文集	6．最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梶原義実	4．巻 3
2．論文標題 「聖域型」寺院をめぐる景観構成	5．発行年 2020年
3．雑誌名 名古屋大学人文学研究科論集	6．最初と最後の頁 271-284
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梶原義実	4．巻 -
2．論文標題 国分寺瓦窯に関する諸問題	5．発行年 2019年
3．雑誌名 古代東国の国分寺瓦窯	6．最初と最後の頁 9-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古尾谷知浩	4．巻 41
2．論文標題 北海道・津軽陣屋跡	5．発行年 2019年
3．雑誌名 木簡研究	6．最初と最後の頁 133-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古尾谷知浩	4．巻 41
2．論文標題 東京・増上寺子院群	5．発行年 2019年
3．雑誌名 木簡研究	6．最初と最後の頁 134-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古尾谷知浩	4．巻 41
2．論文標題 東京・天徳寺寺域第三遺跡	5．発行年 2019年
3．雑誌名 木簡研究	6．最初と最後の頁 134-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古尾谷知浩	4．巻 279
2．論文標題 伊賀国玉瀧杣と天皇家産制的建築生産	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ヒストリア	6．最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 -
2．論文標題 地方寺院の法会―伽藍配置・仏像・経典―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 古代寺院史の研究	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 93
2．論文標題 貧窮する女性たち―『日本霊異記』の説話から―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 駒沢史学	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾野善裕	4．巻 -
2．論文標題 古代宮都と備前の須恵器生産	5．発行年 2020年
3．雑誌名 寒風古窯跡群と都との関わり	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼	4．巻 2
2．論文標題 古墳・飛鳥時代の猿投窯系須恵器工人の動向―猿投窯系窯の整理を通して―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東海窯業史研究論集	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼・尾崎綾亮・片桐妃奈子・河野あすか・中川永・森まどか	4．巻 29
2．論文標題 灰釉陶器出現前後の猿投窯―2．0―10号窯―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 三河考古	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼	4．巻 26
2．論文標題 古墳時代伊勢地域の須恵器生産の展開～系統・傾向の整理を通して～	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Mie history	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大西遼	４．巻 25
２．論文標題 愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅲ―猿投窯東山地区出土瓷器の考古学的調査	５．発行年 2020年
３．雑誌名 愛知県陶磁美術館研究紀要	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大西遼・岩越陽平・早野浩二・松田繁・宮原佑治・三好元樹・渡辺和仁	４．巻 25
２．論文標題 久居窯跡群出土資料の調査報告（上）―伊勢地域の須恵器・埴輪焼成窯―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 愛知県陶磁美術館研究紀要	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大塚友恵	４．巻 7
２．論文標題 犬山市・宮裏池採集の灰釉陶器について	５．発行年 2020年
３．雑誌名 邇波	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 梶原義実	４．巻 65-3
２．論文標題 古代寺院と国家と地域社会	５．発行年 2018年
３．雑誌名 考古学研究	６．最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梶原義実	4．巻 -
2．論文標題 ラグーンの寺々―古代海上交通と古代寺院―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 復元！興道寺廃寺をとりまく景色～古代寺院の景観を考える＝	6．最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梶原義実	4．巻 8
2．論文標題 地方からみた瓦窯の構造	5．発行年 2018年
3．雑誌名 瓦窯の構造研究	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梶原義実	4．巻 -
2．論文標題 周辺地域からみた尾張国―尾張国分寺を中心に―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 尾張国シンポジウム―国府と国分寺の成立―　資料集	6．最初と最後の頁 63-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古尾谷知浩	4．巻 -
2．論文標題 文献史料からみた地方官衙と手工業	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡県と周辺地域の官衙出土文字資料と手工業	6．最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古尾谷知浩	4．巻 -
2．論文標題 文献からみた国・郡・寺院における「庁」における政務とクラ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 地方官衙政庁域の政務と特質	6．最初と最後の頁 125-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 25
2．論文標題 武蔵南部・相模の古代寺院－国造と地方寺院	5．発行年 2018年
3．雑誌名 考古論叢神奈川	6．最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 -
2．論文標題 既多寺知識経と氏寺	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本古代の氏と系譜	6．最初と最後の頁 237-258
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 -
2．論文標題 伽藍配置から見た興道寺廃寺	5．発行年 2019年
3．雑誌名 復元！興道寺廃寺をとりまく景色	6．最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大西遼・尾崎綾亮・片桐妃奈子・河野あすか・中川永・森まどか	４．巻 28
２．論文標題 灰釉陶器出現前後の猿投窯―1．IG―78号窯―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 三河考古	６．最初と最後の頁 31-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大西遼	４．巻 -
２．論文標題 猿投窯をめぐるいくつかの論点に関する小考	５．発行年 2018年
３．雑誌名 愛知県陶磁美術館開館40周年記念特別企画展　知られざる古代の名陶　猿投窯	６．最初と最後の頁 146-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大西遼	４．巻 -
２．論文標題 東海地方における須恵器の受容と普及―尾張・三河・伊勢の窯跡出土資料を中心に―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 考古学研究会第２回合同例会『須恵器受容・普及の実態』発表資料	６．最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大西遼	４．巻 24
２．論文標題 愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅱ―猿投窯東山地区及び尾北窯出土須恵器・瓷器の考古学的調査（付）美濃・伊勢の窯跡出土須恵器―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 愛知県陶磁美術館　研究紀要	６．最初と最後の頁 72-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梶原義実	4．巻 3
2．論文標題 三ッ塚天神窯の発掘調査	5．発行年 2017年
3．雑誌名 関西地方の瓦窯の構造	6．最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梶原義実	4．巻 69-3
2．論文標題 書評　須田勉著『国分寺の誕生　古代日本の国家プロジェクト』	5．発行年 2017年
3．雑誌名 古代文化	6．最初と最後の頁 145-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古尾谷知浩	4．巻 656
2．論文標題 古代の木器生産	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本史研究	6．最初と最後の頁 20-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古尾谷知浩	4．巻 -
2．論文標題 八世紀の布帛生産と律令国家	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『律令制と古代国家』	6．最初と最後の頁 52-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古尾谷知浩	４．巻 1
２．論文標題 北浦定政「平城宮大内裏舗地図解」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	６．最初と最後の頁 447-458
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三舟隆之	４．巻 705
２．論文標題 古代地方寺院の造営計画・技術の伝播－伽藍配置を中心に－	５．発行年 2017年
３．雑誌名 考古学ジャーナル	６．最初と最後の頁 34-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三舟隆之	４．巻 69-1
２．論文標題 書評　竹内亮著『日本古代の寺院と社会』	５．発行年 2017年
３．雑誌名 古代文化	６．最初と最後の頁 137-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三舟隆之	４．巻 -
２．論文標題 古代東国の仏教受容と寺院	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『古代東国の地方官衙と寺院』	６．最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 -
2．論文標題 郷名寺院の諸問題	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『国造制・部民制の研究』	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 -
2．論文標題 「西琳寺縁起」と「知識」－西琳寺は「知識寺」に非ず－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『日本古代の氏族と政治・宗教』下	6．最初と最後の頁 161-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三舟隆之	4．巻 -
2．論文標題 評制の成立と古代寺院－耳別氏と興道寺廃寺－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『耳別氏、若狭に起つ～若狭の古代豪族、耳別氏を考える～』	6．最初と最後の頁 41-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾野善裕・森川実・大澤正吾	4．巻 -
2．論文標題 飛鳥地域出土の湖西窯産須恵器	5．発行年 2017年
3．雑誌名 奈良文化財研究所紀要2017	6．最初と最後の頁 176-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼	4．巻 27
2．論文標題 資料紹介　瀬戸市北山古墳出土の須恵器	5．発行年 2017年
3．雑誌名 三河考古	6．最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼	4．巻 23
2．論文標題 窯跡資料から見た東山窯開窯期の再検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 考古学フォーラム	6．最初と最後の頁 20-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大西遼	4．巻 23
2．論文標題 愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅰ―猿投窯東山地区及び尾北窯篠岡地区出土須恵器・瓷器の考古学的調査―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 愛知県陶磁美術館　研究紀要	6．最初と最後の頁 26-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 永井邦仁	4．巻 4
2．論文標題 海の古代寺院-寺部堂前遺跡（寺部廃寺）出土の型押簾状文軒平瓦を中心に	5．発行年 2018年
3．雑誌名 西尾市史研究	6．最初と最後の頁 110-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計43件（うち招待講演　20件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 方美樺・相場伸彦・清水麻里奈・須賀永帰・島田莉菜
2．発表標題 2020年度　伊保古瓦出土地（伊保白鳳寺）の発掘調査
3．学会等名 あいちの考古学2020
4．発表年 2020年

1．発表者名 三舟隆之
2．発表標題 日本古代史と古代影向寺
3．学会等名 川崎市教育委員会市民講座（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 梶原義実
2．発表標題 地域と連携する名大考古学－愛知用水から伊保廃寺、さらにその先へ
3．学会等名 名古屋市教育委員会 大学連携 オンラインキャンパス講座
4．発表年 2020年

1．発表者名 三舟隆之
2．発表標題 明石国造と太寺廃寺
3．学会等名 古代寺院史研究会（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 尾野善裕
２．発表標題 猿投窯と日本の作陶文化
３．学会等名 みよし猿投古窯研究会主催講演会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 永井邦仁
２．発表標題 さいはての瓦塔と古代国家の北・南
３．学会等名 第38回稲沢”歴史を学ぶ”会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 古墳時代の窯業生産体制―猿投窯系須恵器窯の様相から―
３．学会等名 三河考古学談話会東三河例会
４．発表年 2019年

１．発表者名 青木修・大西遼・立原遼平・中里信之
２．発表標題 古代のやきもの産地・猿投窯の施釉陶器－白瓷生産の拡散と猿投窯系工人の動向を考える－
３．学会等名 あいちの考古学2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 島田莉菜・方美樺
２．発表標題 伊保古瓦出土地　2019年度の発掘調査
３．学会等名 あいちの考古学2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 河野あすか・大西遼
２．発表標題 灰釉陶器出現前後の猿投窯―IG－78・0－10号窯跡出土品―
３．学会等名 三河考古学談話会西三河例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 景観的見地からみた宗教的建造物の造営
３．学会等名 日本―インドネシアの宗教（仏教）および言語学（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 地方における瓦窯構造
３．学会等名 第17回窯跡研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 景観的見地からみた山国の寺々
３．学会等名 積石塚・渡来人研究会第４回総会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 古代寺院と国家と地域社会
３．学会等名 考古学研究会第64回総会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 林順
２．発表標題 2018年度伊保古瓦出土地（伊保白鳳寺）の発掘調査
３．学会等名 あいちの考古学2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 古尾谷知浩
２．発表標題 文献史料からみた地方官衙と手工業
３．学会等名 地域と考古学の会・浜松市博物館・静岡県考古学会シンポジウム「静岡県と周辺地域の官衙出土文字資料と手工業生産」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 三舟隆之
２．発表標題 出雲の古代寺院―新造院の世界―
３．学会等名 島根県古代文化講座（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 三舟隆之
２．発表標題 伽藍配置からみた興道寺廃寺
３．学会等名 福井県美浜町歴史フォーラム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 三舟隆之
２．発表標題 氏寺と知識
３．学会等名 仏教史学会大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 尾野善裕
２．発表標題 古代宮都の発掘調査から見た猿投窯
３．学会等名 みよし猿投古窯研究会主催講演会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 尾野善裕
２．発表標題 宮都の土器から猿投窯須恵器編年と北丹波・東流遺跡出土土器を考える
３．学会等名 研究集会「北丹波・東流遺跡と８世紀の須恵器生産」
４．発表年 2019年

１．発表者名 永井邦仁
２．発表標題 尾張三河の文字資料と手工業
３．学会等名 地域と考古学の会・静岡県考古学会・木簡学会静岡特別研究集会2018公開シンポジウム：「静岡県と周辺地域の官衙出土文字資料と手工業」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 永井邦仁
２．発表標題 海の古代寺院―寺部堂前遺跡(寺部廃寺)出土の瓦を中心に―
３．学会等名 『新編西尾市史』特別講座「市史編さんの現場からⅢ」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 陶邑窯と猿投窯
３．学会等名 堺市博物館　企画展「堺に窯がやってきた！―古墳時代・やきものの技術革新―」講演会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 尾北窯出土白瓷の基礎的調査
３．学会等名 あいちの考古学2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 猿投窯の発展と斎宮
３．学会等名 愛知県陶磁美術館・斎宮歴史博物館連携シンポジウム「斎宮跡と猿投窯」
４．発表年 2018年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 古墳・飛鳥時代の猿投窯系須恵器工人の動向
３．学会等名 東海窯業史研究会『東海窯業史研究論集Ⅱ』事前報告会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 東海地方における須恵器の受容と普及―尾張・三河・伊勢の窯跡出土資料を中心に―
３．学会等名 考古学研究会第２回合同例会「須恵器受容・普及の実態」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 東海地方における須恵器の受容と普及
３．学会等名 愛知県（東海）の古墳時代を考える会（仮称）準備会
４．発表年 2019年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 三ッ塚天神窯の発掘調査
３．学会等名 窯跡研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 尾北窯における瓦生産
３．学会等名 科研費助成事業「古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究」第２回研究会「尾北窯について考える２」
４．発表年 2017年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 古代寺院の成立と地域社会
３．学会等名 あいちの考古学（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 一本づくり軒丸瓦・一枚づくり軒平瓦の展開
３．学会等名 古代瓦研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 梶原義実
２．発表標題 国分寺瓦窯に関する諸問題
３．学会等名 東国古代遺跡研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 古尾谷知浩
２．発表標題 「『律令制』と土器」再論
３．学会等名 科研費助成事業「古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究」第１回研究会「尾北窯について考える１」
４．発表年 2017年

１．発表者名 古尾谷知浩
２．発表標題 文献からみた国・郡・寺院の「庁」における政務とクラ
３．学会等名 古代官衙・集落研究集会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 古尾谷知浩
２．発表標題 奈良時代における銅の消費（銅製品の生産）について
３．学会等名 高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究
４．発表年 2018年

１．発表者名 三舟隆之
２．発表標題 評制の成立と古代寺院－耳別氏と興道寺廃寺－
３．学会等名 耳別氏、若狭に起つ～若狭の古代豪族、耳別氏を考える～
４．発表年 2017年

１．発表者名 尾野善裕
２．発表標題 尾北窯における須恵器生産
３．学会等名 科研費助成事業「古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究」第１回研究会「尾北窯について考える１」
４．発表年 2017年

１．発表者名 尾野善裕
２．発表標題 尾北窯の盛衰と猿投窯
３．学会等名 科研費助成事業「古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究」第２回研究会「尾北窯について考える２」
４．発表年 2017年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 窯業と水辺文化　―窯業遺跡出土の漁労具を事例に―
３．学会等名 2017 年度・第１回　アジア水中考古学研究所・東日本会員連絡会（水中文化遺産研究報告会）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 尾北窯における須恵器生産ー愛知県陶磁美術館所蔵・保管資料を中心にー
３．学会等名 科研費助成事業「古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究」第２回研究会「尾北窯について考える２」
４．発表年 2017年

１．発表者名 大西遼
２．発表標題 ポスターセッション：尾北窯出土須恵器の調査
３．学会等名 平成29年度考古学セミナー　あいちの考古学2017
４．発表年 2017年

〔図書〕　計7件

１．著者名 梶原義実・田中哲史・井上隼多ほか	４．発行年 2020年
２．出版社 名古屋大学考古学研究室	５．総ページ数 46
３．書名 東山118号窯発掘調査報告書	

１．著者名 古尾谷知浩	４．発行年 2020年
２．出版社 塙書房	５．総ページ数 307
３．書名 日本古代の手工業生産と建築生産	

１．著者名 三舟隆之	４．発行年 2020年
２．出版社 同成社	５．総ページ数 386
３．書名 古代氏族と地方寺院	

１．著者名 森泰通ほか	４．発行年 2020年
２．出版社 豊田市	５．総ページ数 250
３．書名 新修豊田市史通史編　原始～古墳	

１．著者名 永井邦仁ほか	４．発行年 2019年
２．出版社 西尾市	５．総ページ数 -
３．書名 新編西尾市史　資料編１　考古	

１．著者名 梶原　義実	４．発行年 2017年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 232
３．書名 古代地方寺院の造営と景観	

１．著者名 佐藤　信、小口　雅史、古尾谷　知浩　ほか	４．発行年 2018年
２．出版社 同成社	５．総ページ数 322
３．書名 古代史料を読む　上	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	三舟　隆之 (Mifune Takayuki) (20418586)	東京医療保健大学・医療保健学部・教授 (32809)	
研究分担者	尾野　善裕 (Ono Yoshihiro) (40280531)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部・部長 (84301)	
研究分担者	古尾谷　知浩 (Furuoya Tomohiro) (70280609)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	森　泰通 (Mori Yasumichi)	豊田市	
研究協力者	永井　邦仁 (Nagai Kunihito)	愛知県埋蔵文化財センター	
研究協力者	大西　遼 (Onishi Ryo)	愛知県陶磁美術館	
研究協力者	望月　友恵 (Mochiduki Tomoe)	古代邇波の里文化遺産ネットワーク	
研究協力者	井上　隼多 (Inoue Hayata)	名古屋大学・大学院人文学研究科・博士後期課程 (13901)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関